

第3回東京都人権施策に関する専門家会議議事概要

開催日時：平成29年5月30日（火） 15時30分～17時30分

開催場所：東京都人権プラザ（本館）

《出席》 戸松秀典座長、江上千恵子副座長、後藤千恵委員、繁田雅弘委員、
鶴田幸恵委員、菱山謙二委員、本澤巳代子委員（以上7名）

《欠席》 石渡和実委員、大江近委員、佐藤佳弘委員、山脇啓造委員（以上4名）

（1）議題「東京都人権プラザ（本館）の視察について」

○ 東京都人権プラザ（本館）の概要説明

総務局人権部長が概要説明を行った。

○ （公財）東京都人権啓発センターの事業概要説明

（公財）東京都人権啓発センター専務理事が事業概要説明を行った。

○ 東京都人権プラザ（本館）の視察

専門家会議委員が、東京都人権プラザ（本館）の展示室、企画展示室、図書資料室を視察した。

※企画展示室では、当日は「写真展『人権という希望』」を開催中

【委員からの主な意見】

- ・ 大変良くできていて、最初にあった街並みのクイズ形式のもの（TOKYOキヅキ・タウン）など、みんな面白がってやるだろうと思った。なおかつ、いろいろなことを知る上で重要な効果を持つものが入っている。
- ・ 東京都人権プラザ（分館）は、なぜあそこにあるかという歴史的経緯があるけれども、建物が古くなって人権全般の普及啓発となると、なかなかそのままという訳にいかない。人権プラザがここに移転してくるまでの経緯や位置づけ、意味づけというのはきちんとなされている。
- ・ 入口から全体も非常にきれいになって、これから東京都の人権の啓発教育等について前向きにやっていくぞ、というのがここからだけでも感じられる。
- ・ 明るいイメージの中で重い課題を並べるようになっていたし、いろいろな工夫が至る所にあって、いいなと思った。じっくりもっと長い時間ここにいたいなと思える場所だった。
- ・ 多くの方に来てもらうために、小中学校の先生などに来て見てもらえたら、図書室などすごく活用できる。ビデオなどもある。今はテーマごとに分けていたが、これからコーナーごとに、どんなコーナーかを書いていくとよい。図書室を歩き、本をテ

まごとにぎっと見て歩くだけで、人権問題とはこういうものなんだ、という全体像が掴めた感じがした。

- ・ 主に若い人たちに向けてやっているということで、最初の「きづき」の体験（TOKYOキヅキ・タウン）のところはすごくいい。ただ、質問のところは小学校高学年であればあれくらいでいいかもしれないが、解答のところは漢字が多く、少し難しい。
- ・ もし解答のところを変えられるのであれば、何か、ゆるキャラのような、例えば人権ということでハート君などが出てきて、ハート君が答えるような感じで。そして、ですます調で答えていますが、「これはこうなんだ」「そうなんだ」など、ちょっと物言いを変えるだけで、子供は入りやすくなる。
- ・ 実際に当事者の声を聞ける（私たちの声“O u r V o i c e s”）というのは素晴らしい。映像に載せる文字をもう少し大きくすると、視覚、目で入ってくることも多い。例えばハンセン病の方などでテーマが左上に出ますけど、あの文字を大きくカラフルにすると、今、何のテーマで話しているか、目でパッと入ってきた上で見ると、印象が全然違う。
- ・ 3分半でも結構長く感じてしまう。工夫としてはY o u T u b e などを見る時に、今どれくらい見た、1分、2分経過など、あれが下に出てくるだけで、あと2分だからもうちょっと頑張ってみようと思う。3分が同じ調子で出て来るので、もしかしたら小学校高学年でも飽きてしまうかも知れないので、画面上のちょっとした工夫でもっと良くなる。
- ・ TOKYOキヅキ・タウンで、何歳から何歳までのボタンを押せば、出てくる質問・解答が違うようにシステムを組めば、年齢にあった質問・回答にすることができ、もっと素晴らしいくなる。
- ・ 通常的能力を持った方、健常者に対して展示がされているという印象を持つ。他の博物館の事例では、全てにふりがなが振ってあり、それなりの大きさの字で、あまり高くない位置に設置されており、大人でも、漢字が読めない人や、目が見えにくい方がいたり、そういう方々へ色々なことに配慮した展示になっている。人権問題で自分も人権があるはずなのに自分が対象外と来た人に思われてしまったら、ちょっと残念。
- ・ 年代や対象は、ある程度ターゲットをいくつかに分けた方が分かりやすい。外国人の方も日本語を勉強していれば分かるので、英語だけでなく、日本語を大きな字、ひらがなで書いてあげることも考えられる。メインの説明だけが英語だが、もう少し他の言語もあるといい。
- ・ 外国人で人権を勉強している人たちがいるが、この東京都人権プラザに連れてくると、ちょうどいい。
- ・ 視聴覚的な感じの展示が、日本人向けのものが少し多いかなと感じた。もう少し漫画的なものでもいいし、小さい子供用と外国人用を作ってもいい。いろいろなバリエーション、多様化の状況だ。要求が多様になると対応する方は大変なのは分かるが、多様性というのは、要はそういうことで、手間暇がすごくかかるものだ。
- ・ 知り合いの女性教諭が素晴らしい手話を披露して、学生と一緒に涙した。体感しないとなかなか分からないが、人間性が良く伝わってくる素晴らしい手話だ。感覚として感じられることがすごく大事だ。あまり大上段にお勉強のようなものばかりでなく、感動することも子供たちにはものすごく大事だと思う。いろいろな活動をされている

方が沢山いる。協力をお願いすればいくらかでも協力してもらえと思う。

- ・ 実体験をしてみると、言葉で言われるよりも、実際に車いすに乗ってみたり、パラリンピックスポーツを体験してみると、障害のある方の気持ちなどが体感できる。一人で来るとなかなか、車いすに乗っていいのかな、とってしまうので、体験しやすいような形を取るといい。
- ・ 文字の問題は、みんなが読める、見える人ばかりではないので、その辺の配慮はお願いしたい。
- ・ 普段人権に関心のない人にどうやって来ていただくか、という課題があるが、写真が一つ手段だと思う。人権には興味はないけど、写真展があるのならば来ようとか、何人かある内の少ない枚数でも著名な写真家の写真作品が入っていると、それを見に来る方がおられると思うので、それが人権のことに気付くきっかけになり得る。
- ・ それを考えると展示室は少し狭い。いい写真がぎちぎちで展示されているので、もう少し余裕があるといい。例えばセミナールームの壁を使って、特別展の時にはセミナールームの中にも写真を展示するのも一案。写真が展示されていても、セミナーはできる。
- ・ 東京都は他の道府県では持っていない東京都写真美術館を持っている。そこでも、人権プラザでやっている写真展をちゃんと案内すると、写真美術館に行った人が、写真展を他でもやっているんだと気付いて、ここに来てくれる。興味がある人は絶対に来ると思うので、ここに写真展を見にくるという人が少し広がってくると、きっかけになる。ここにきた人が、ここにある写真は写真美術館とは違うインパクトがあるということで、ちょっとうつつむいて考えながら、帰っていただけるとすごくいい。
- ・ 一人権とは何か、人権の意義を理解するのがここ人権プラザでのテーマではないか。図書室についても、人権に関する絵本や漫画を揃えるということもあるが、狭く考えるとつまらなくなってしまう。堅苦しくなってしまう。人の心を豊かにする絵本であれば、人権教育にもなる。そういう発想で、あまり人権問題に限定するのではなく、この人権プラザで人の心が豊かになるような刺激を体験できることが必要ではないか。

(2) 議題「その他」

〈「オリンピック・パラリンピックと人権・東京都シンポジウム実施結果」「人権啓発アニメCM」「ヘイトスピーチ」について事務局より説明・動画視聴〉

【委員からの主な意見】

- ・ プライドハウスについて、都の認定しているNPOが設立計画を発表して、適宜連絡を取って民間で動くということになったそうだ。情報提供したい。